

なるへし見よ水々には紅葉を以て飾り我等の燈火に親し
 む好節に笑はず心地勝れざる時は彼の紅葉の中に遊
 び然して快より成り笑はは再びなつかしき書齋に入り
 窓打開き心静かに好める業に勵み笑可く御勤め申上り
 頤首



送僧
 楚水吳山不計程
 問君錫杖歸何日

無心端的是平生
 笑指行雲一片輕

龜口東冥

身延山